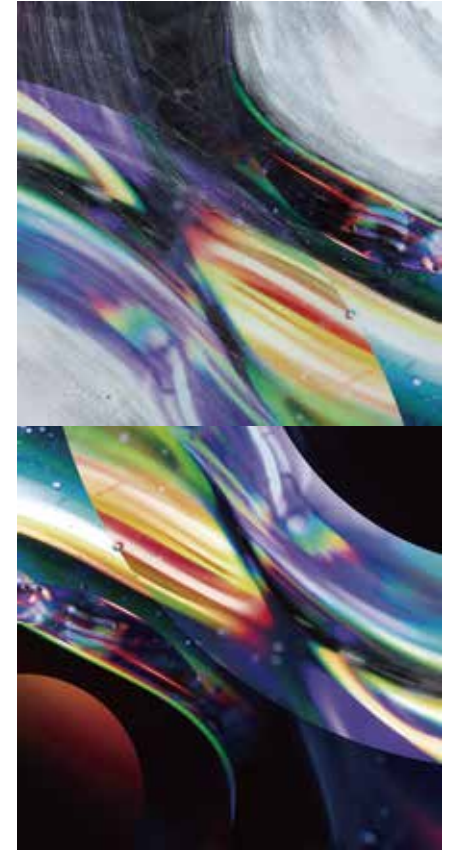
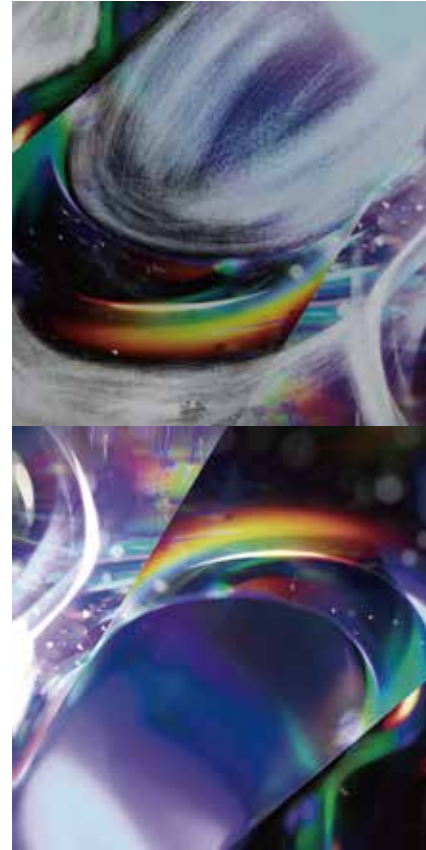
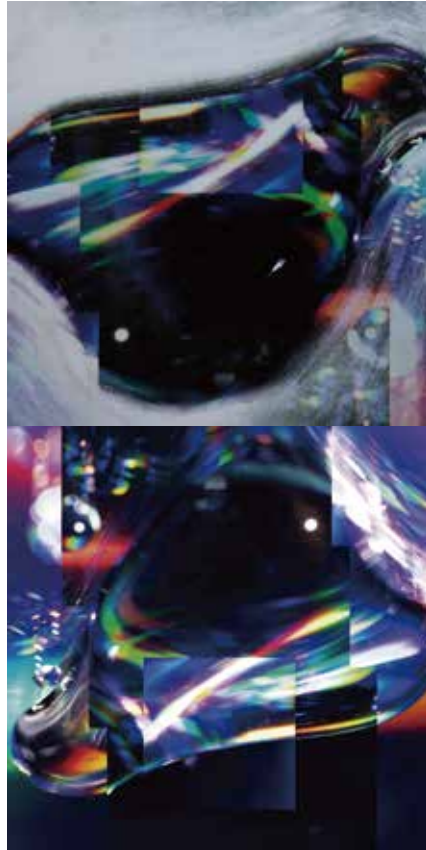
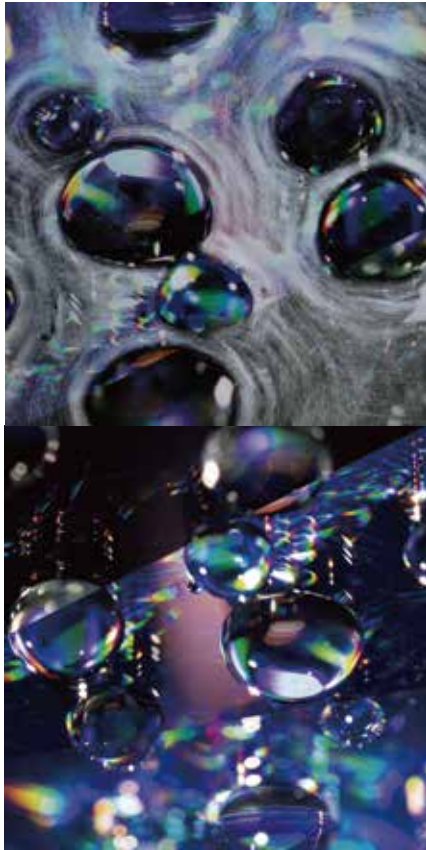
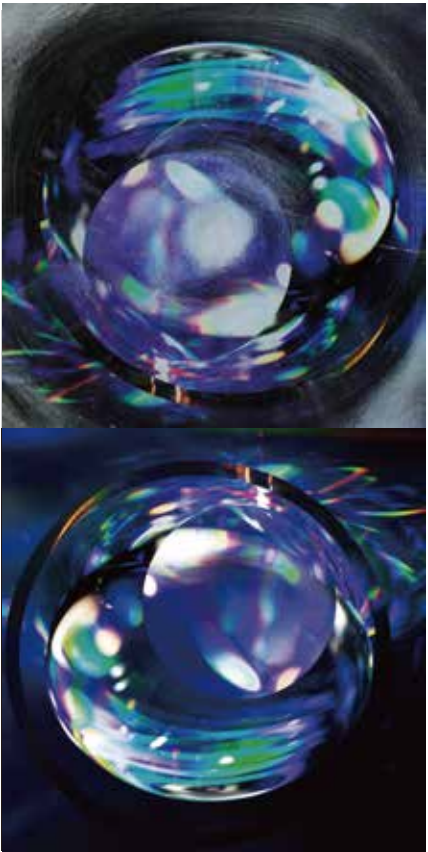
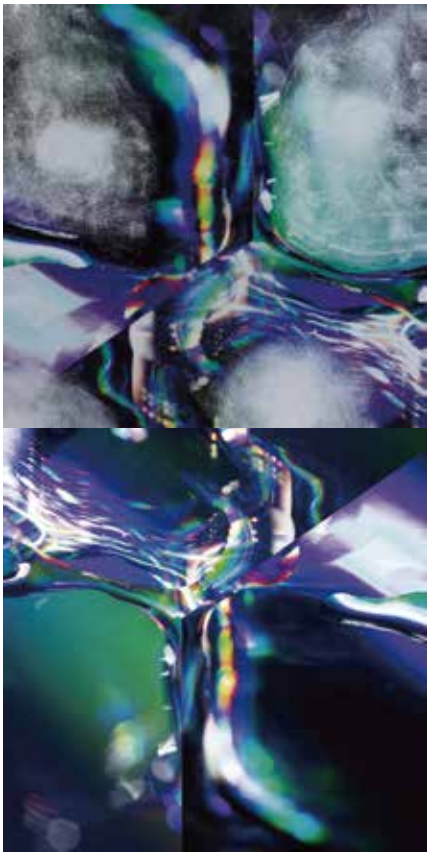
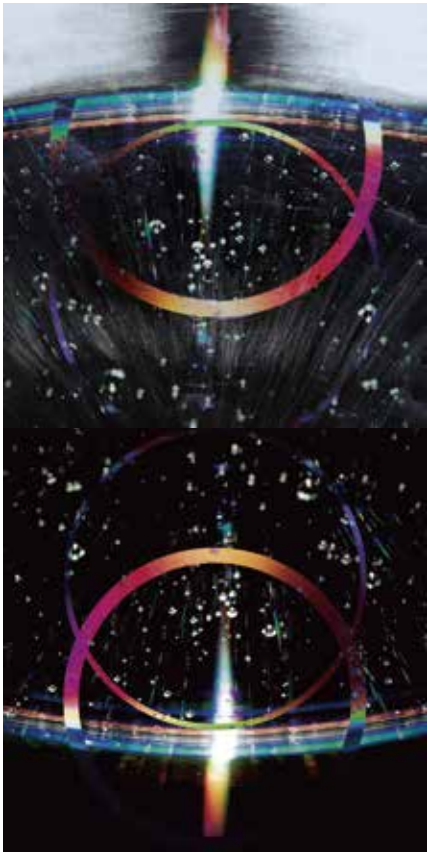


2024 年度卒業制作

183087 中野陽介

BLANK (ブランク)





テーマ

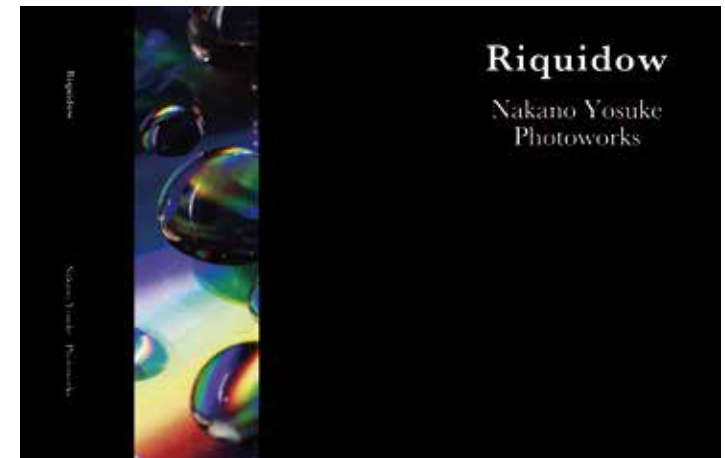
心身の不調で休学していた数年間の空白という意味のブランク。

病気で思考できなくなっていたときの感覚のブランク。

二つのブランクをこれまで製作してきた写真作品（riqidow）を元に新しいヴィジュアルを作ることで表現する。



riqidow（リクイドウ） 2020年作
液体を美しく表現するために制作した。

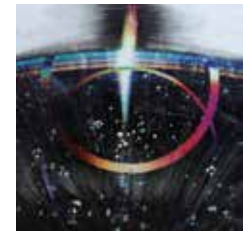
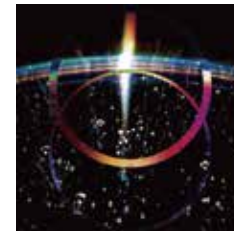
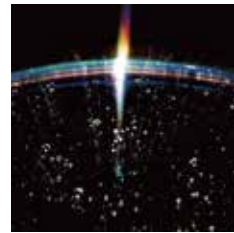


表現

作品（riquidow）をトリミング・分割・合成してからヤスリで削り画面を漂白することでテーマを体現する。

その後、削ったパネルを透明なメEDIUMで盛り上げることでハイライト部分の鮮やかさを保ち、作品の厚み深みを向上させることを目指した。

また、展示の際には削る前の黒く鮮やかな画像を並べて削られた白を際立たせている。



元画像

トリミング

合成

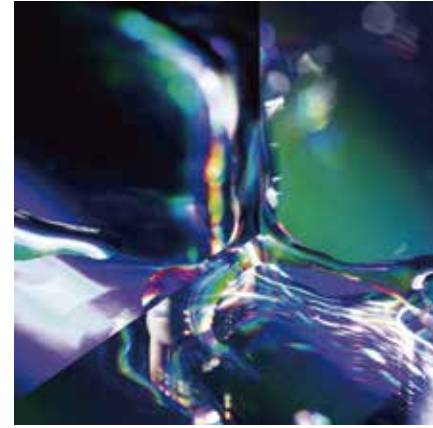
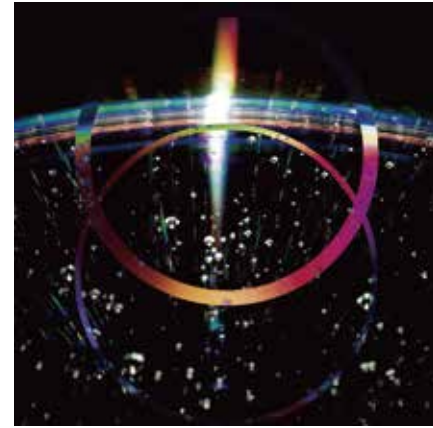
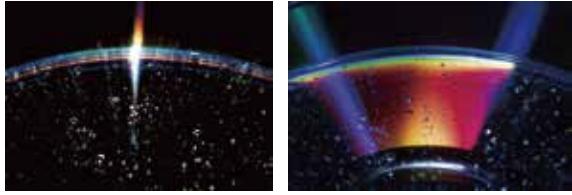
加工

分割・トリミング・合成

- 元の画像のイメージを残しつつ新しいヴィジュアルを作る。色彩もあまり突飛なものにならないようにした。
- 分割や合成するのは過去の作品（riquidow）では表現できなかったライティングや構図を表現するため。

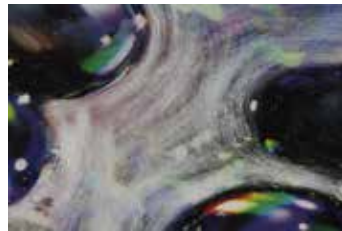
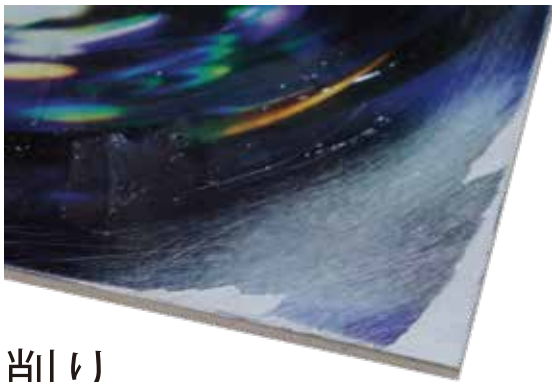




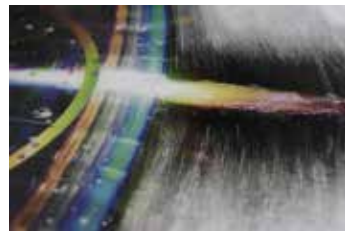


加工

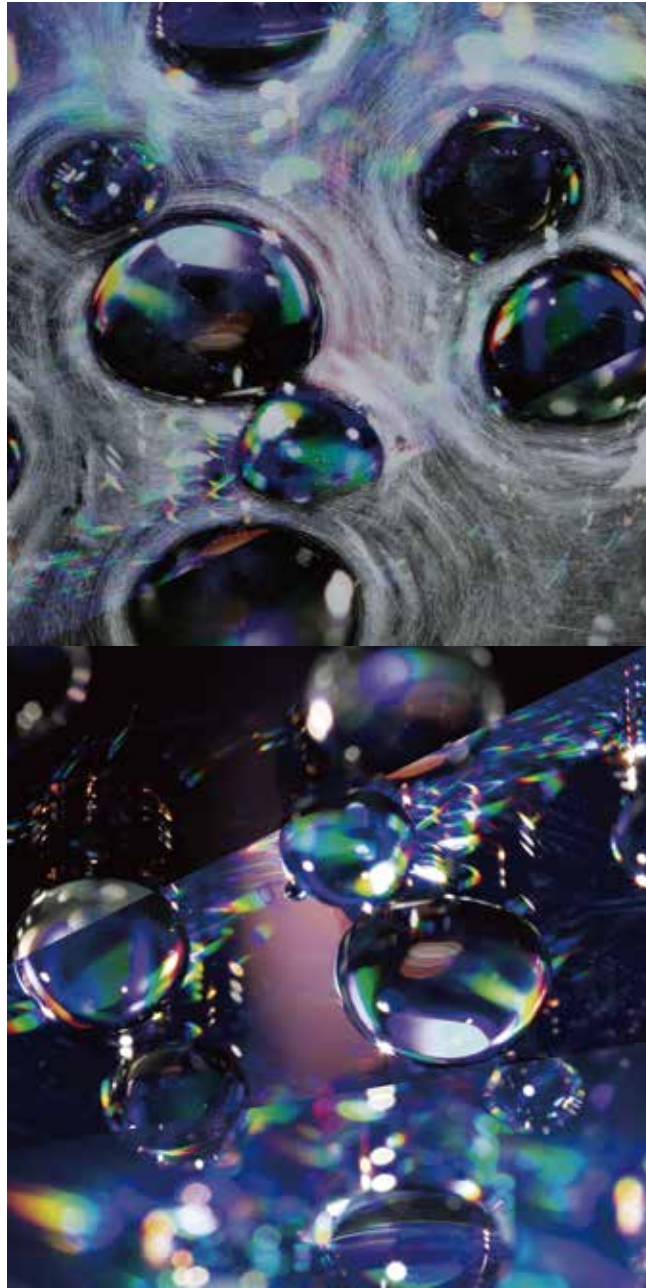
- ・ソフトウェア的な加工ではなく、物理的な加工を行う。主にヤスリを使って写真紙を削る。消えゆく画像とえぐられたテクスチャによって失われた時間やどうにもならない感覚を表現している。
- ・このような加工を考えついたのは、これまで制作した作品の中で写真紙を加工して作ったものがあったからである。
- ・ハイライトやオブジェクトの境界に粘度の高いメディウムを塗り込み背景の白と明確な違いを生んだ。



削り



メディウム



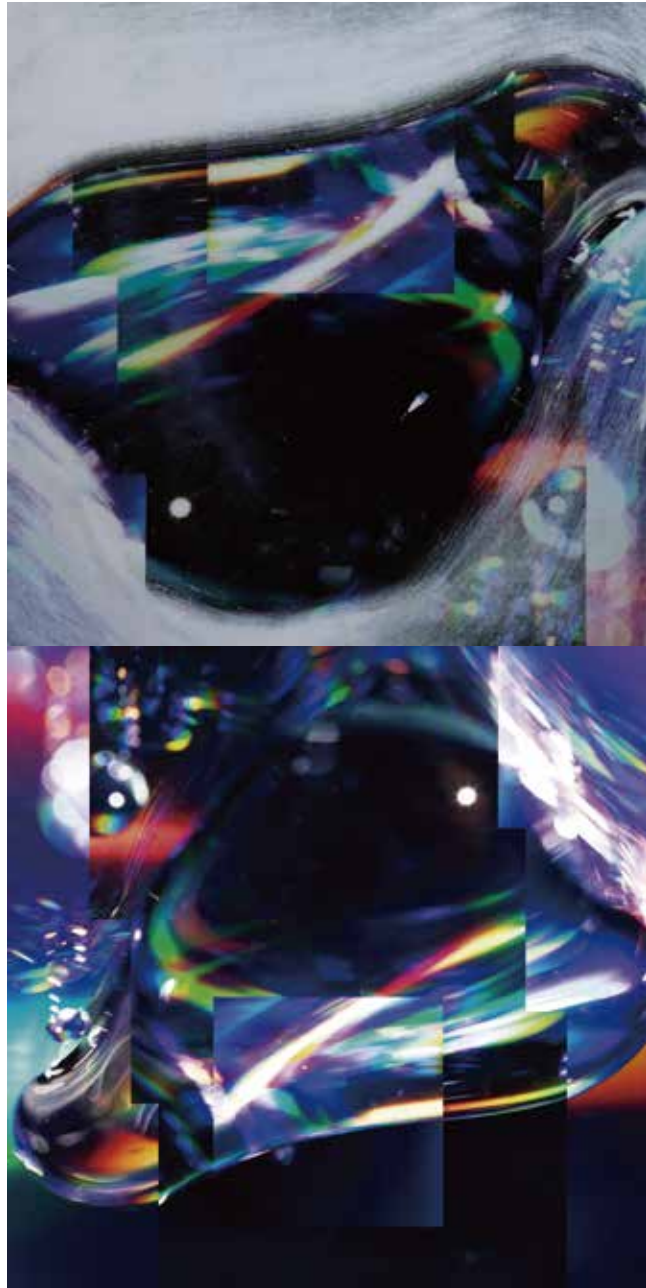
個別作品

A

小粒のつぶつぶが映し出された作品。

上の部分は粒の周りに沿ってやすりがけをした。波紋のようになった背景部分は輝く粒との対比によってさらに際立っている。

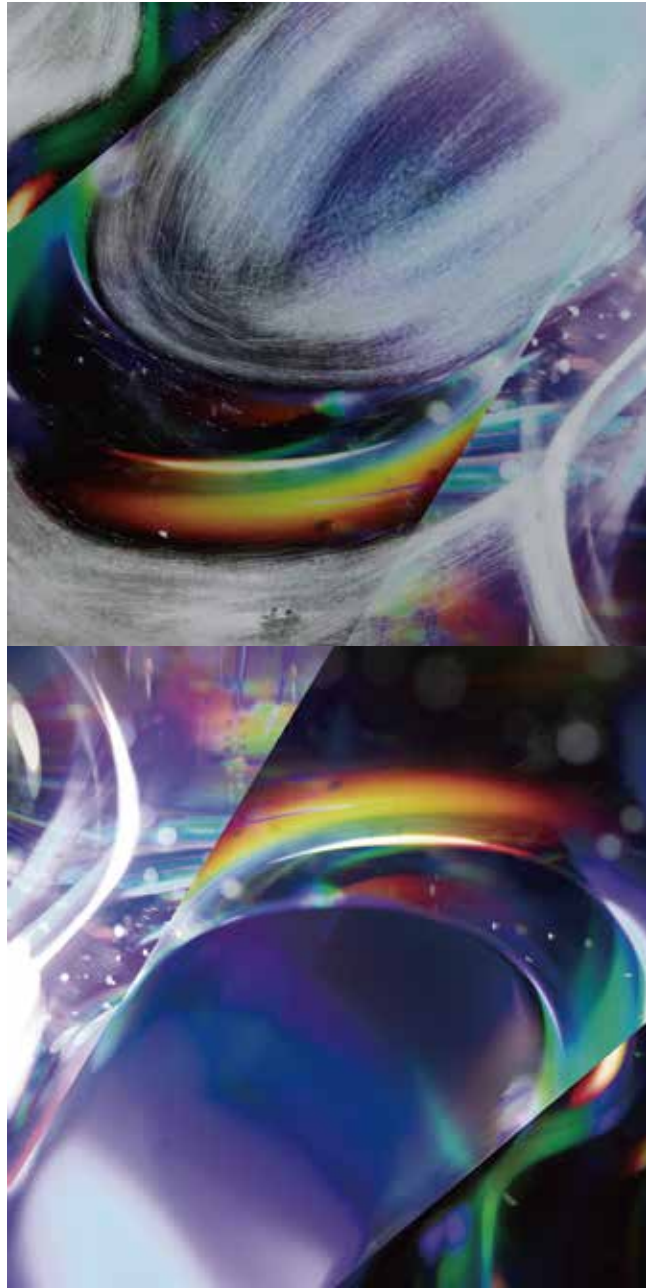
下の部分は削る前のものになっている。メインカラーが黒になるように合成した。対する上部はコンセプトを体現するための白になっておりBLANKではこれが基本になっている。



B

サドルのような形をした作品。光の筋やうねりがより際立つように画像を合成した。各画像のいいところを組み合わせ、過去作ではできなかったライティングを表現しようと試みた。

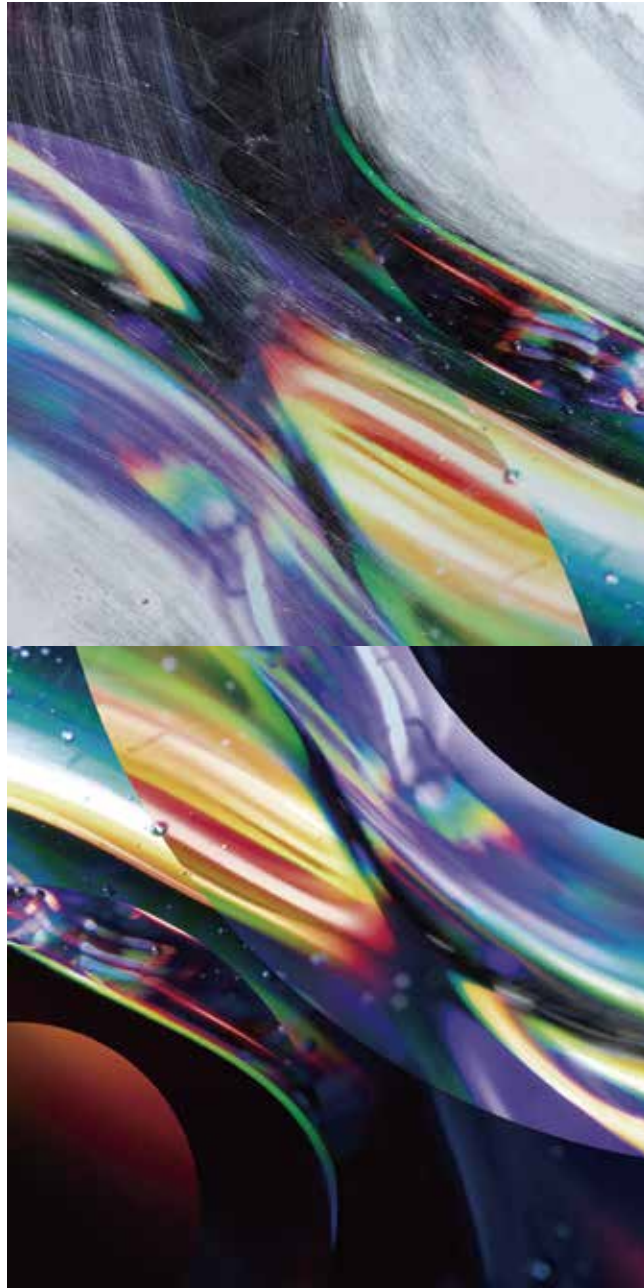
また、この作品は背景との境がくっきりしているので見えなくなるくらいまで削り尽くした。



C

光の筋が蹄鉄のような形を描く作品。

元の画像は全く違う色彩のものを組み合わせているので、削りによって光の筋と合成の継ぎ目を緩めて全体的な調和を目指した。



D

光が川のように流れている作品。

8つの作品の中で最も流れを感じるものになっている。

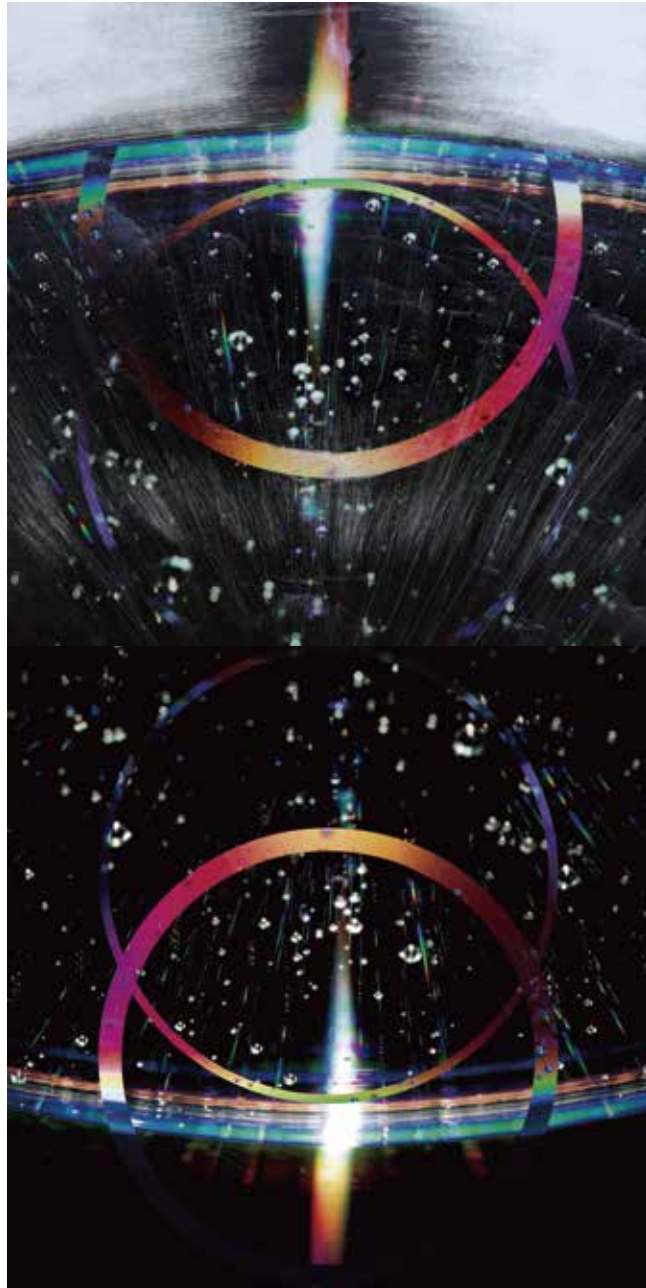
元々極彩色なので合成する手順や画像を含めて1枚の画像として成立させるのに苦心した。



E

ねっとりとした液体のような物質の中に星空のような光が輝いている作品。

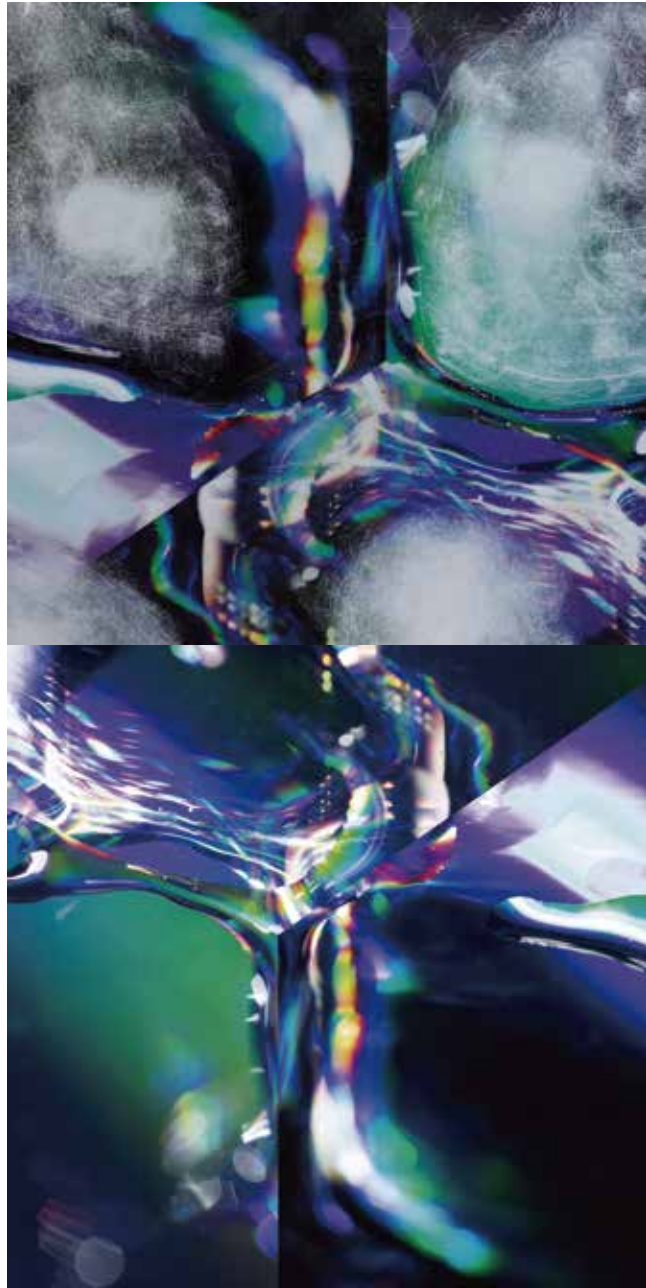
この作品の鮮やかさは抜きん出ているので、オブジェクトよりも背景に意識を向けて制作した。



F

夜明けのような、日食のようなイメージの作品。

このシリーズは点数が少ないので元の作品との差別化を意識した。朱色のリングはその最たるものだろう。



G

サンゴのようなものが3方向に伸びる作品。

青みがかった3種の画像をサンゴの基点となる中心部で分割して合成した。

この作品の削りは直線ではなく円を描くようにした。これによって他の作品との明確な違いと独特のテクスチャを生んだ。



H

水晶のような大きな玉が鎮座している作品。

中心部を深く削り、それを中心としてぐるぐると削っていった。白い空白に吸い込まれるような、あるいは吐き出されるような、元の作品の静止したイメージを崩すようにした。

サイズ

500mm×500mm

16枚（8種類×2パターン、光沢紙・パールフォト半光沢紙） パネル貼り

展示場所

共通工房 A 前の壁面

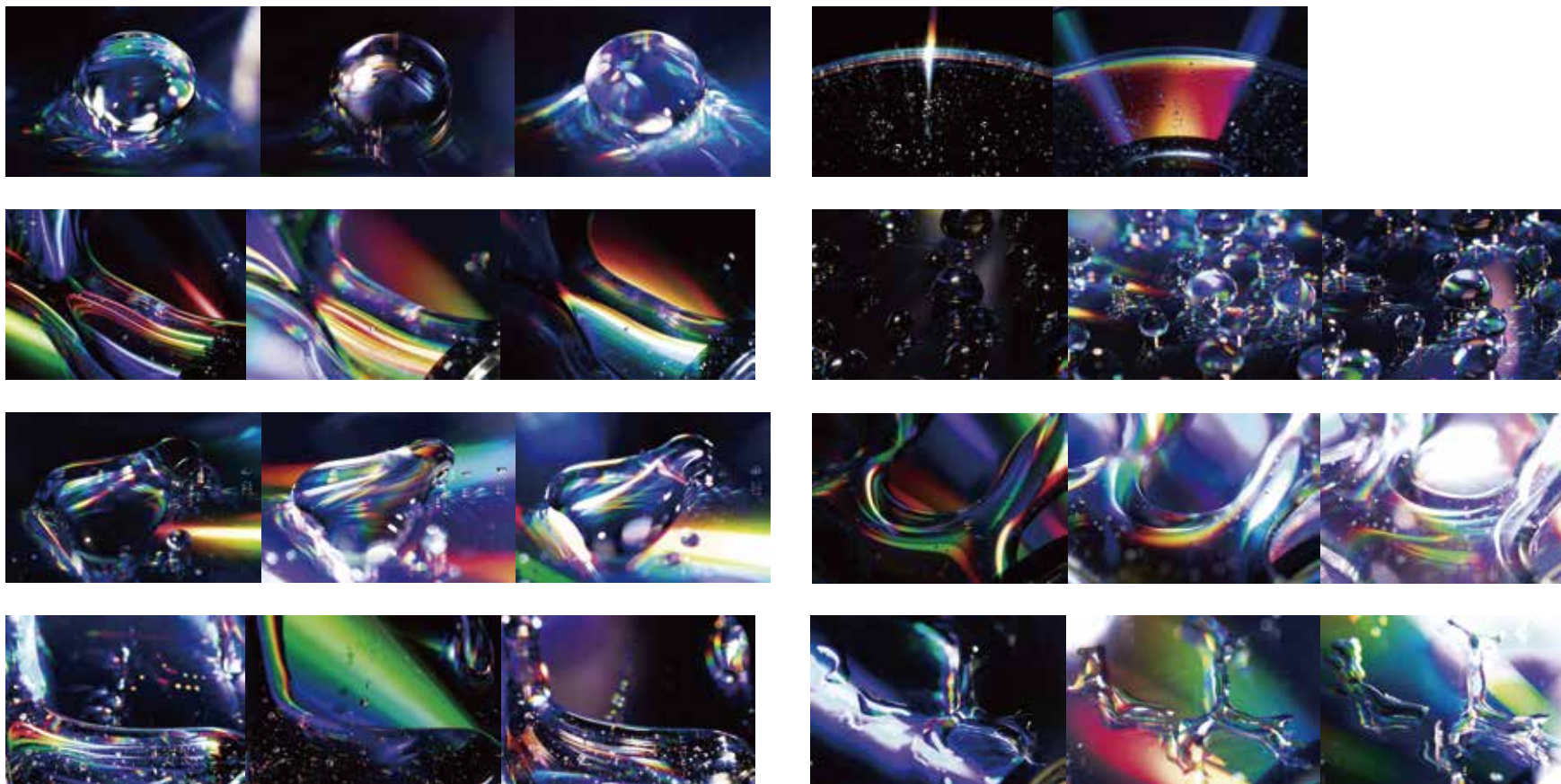


制作過程

前作 Riquidow などの過去作について

液体をテーマにした写真作品。形に縛られない自由さに美とロマンを見出してこの作品を制作した。

今回の作品では大判写真として展示しなかったものを中心に使用している。



雨

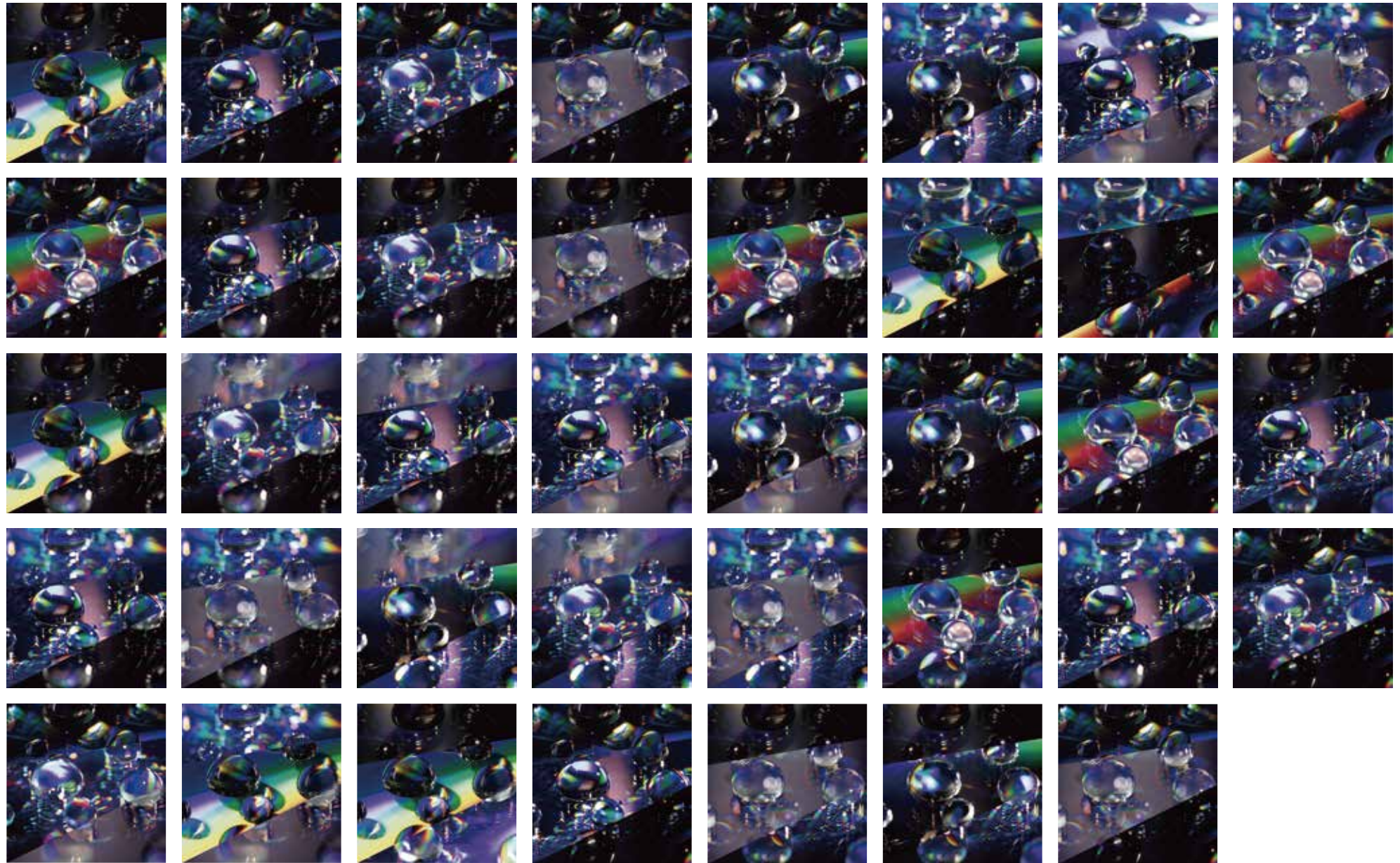
印刷した光沢紙を濡らしたり、スジを入れたものを再び撮影した作品。

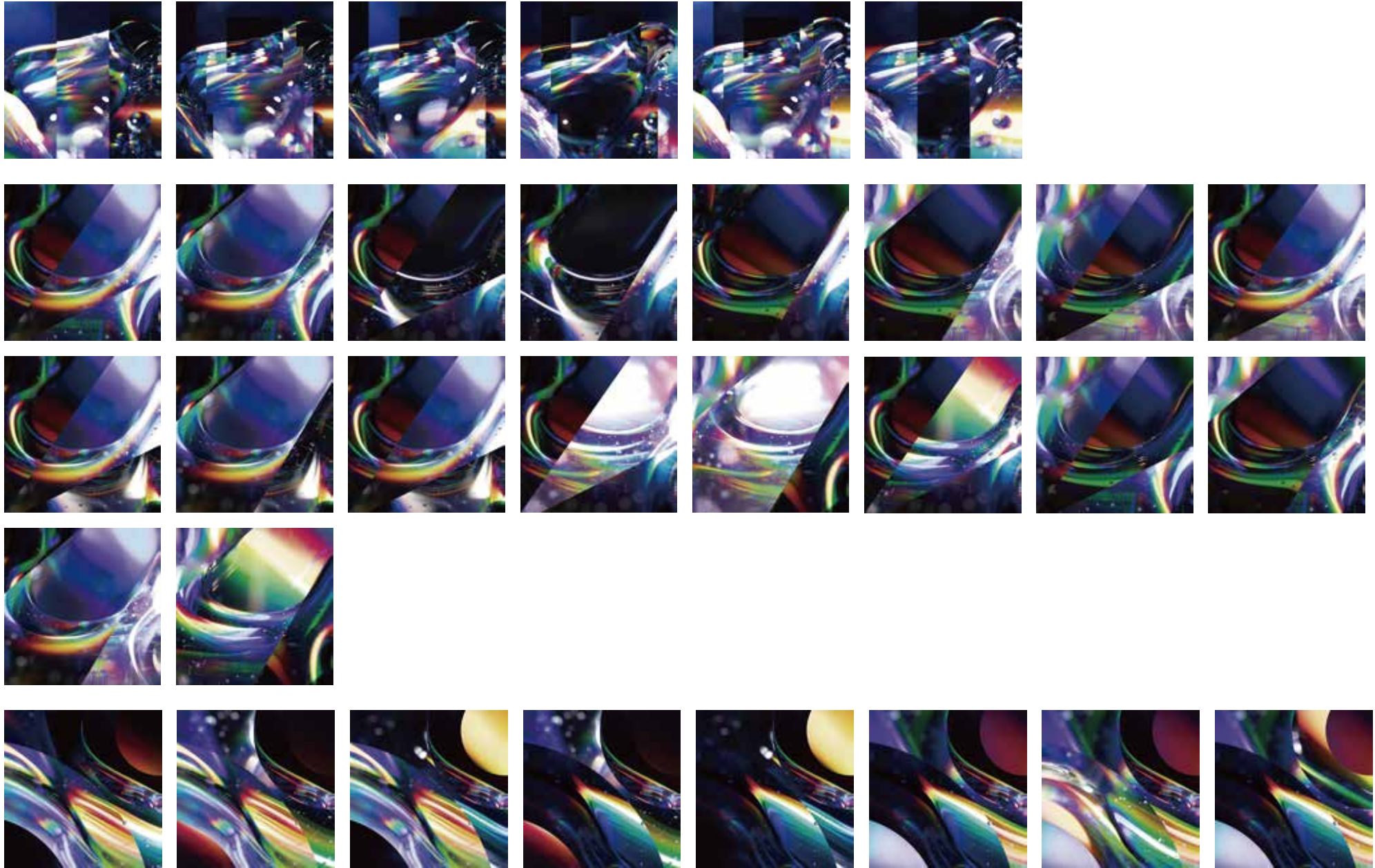


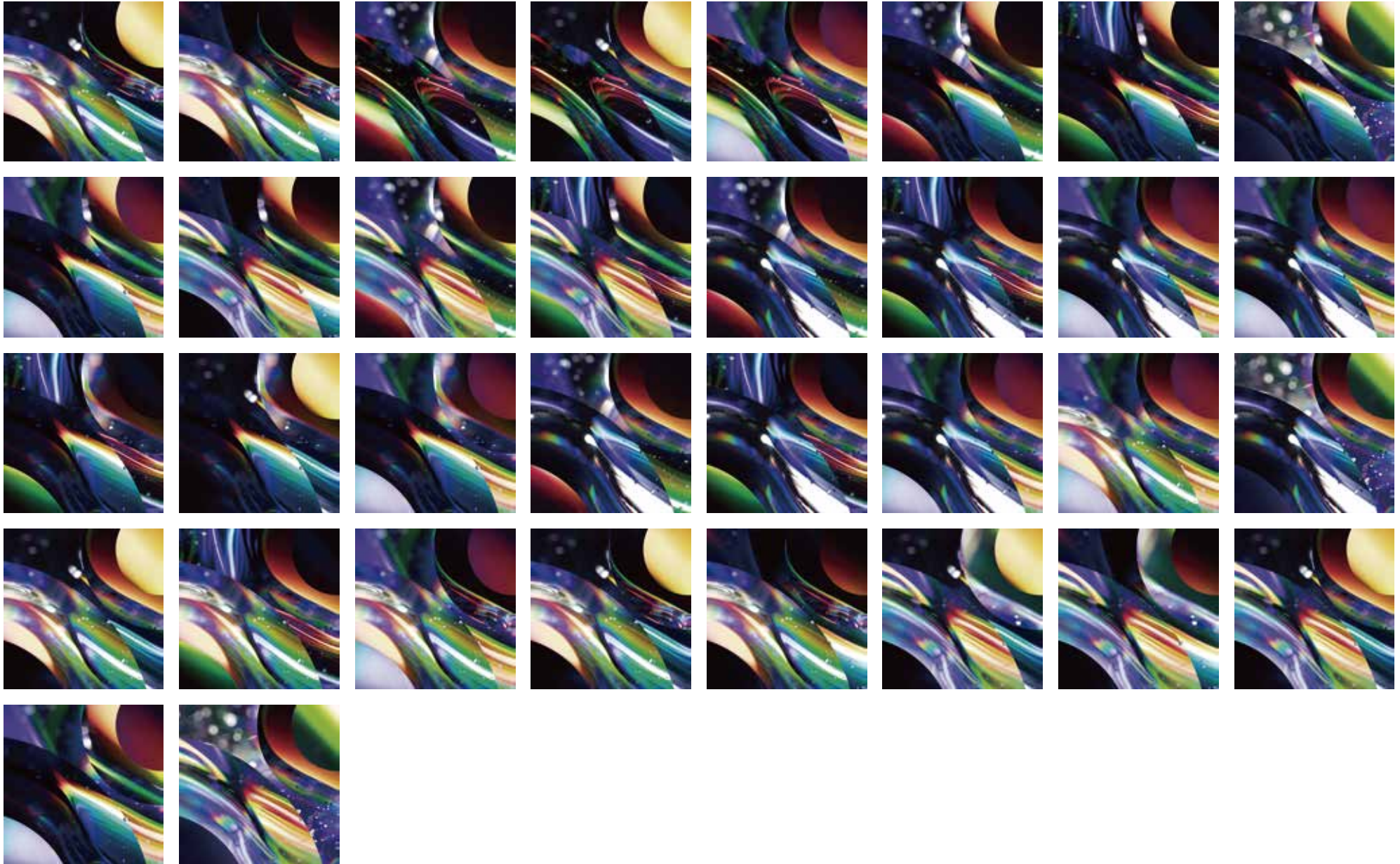
mine

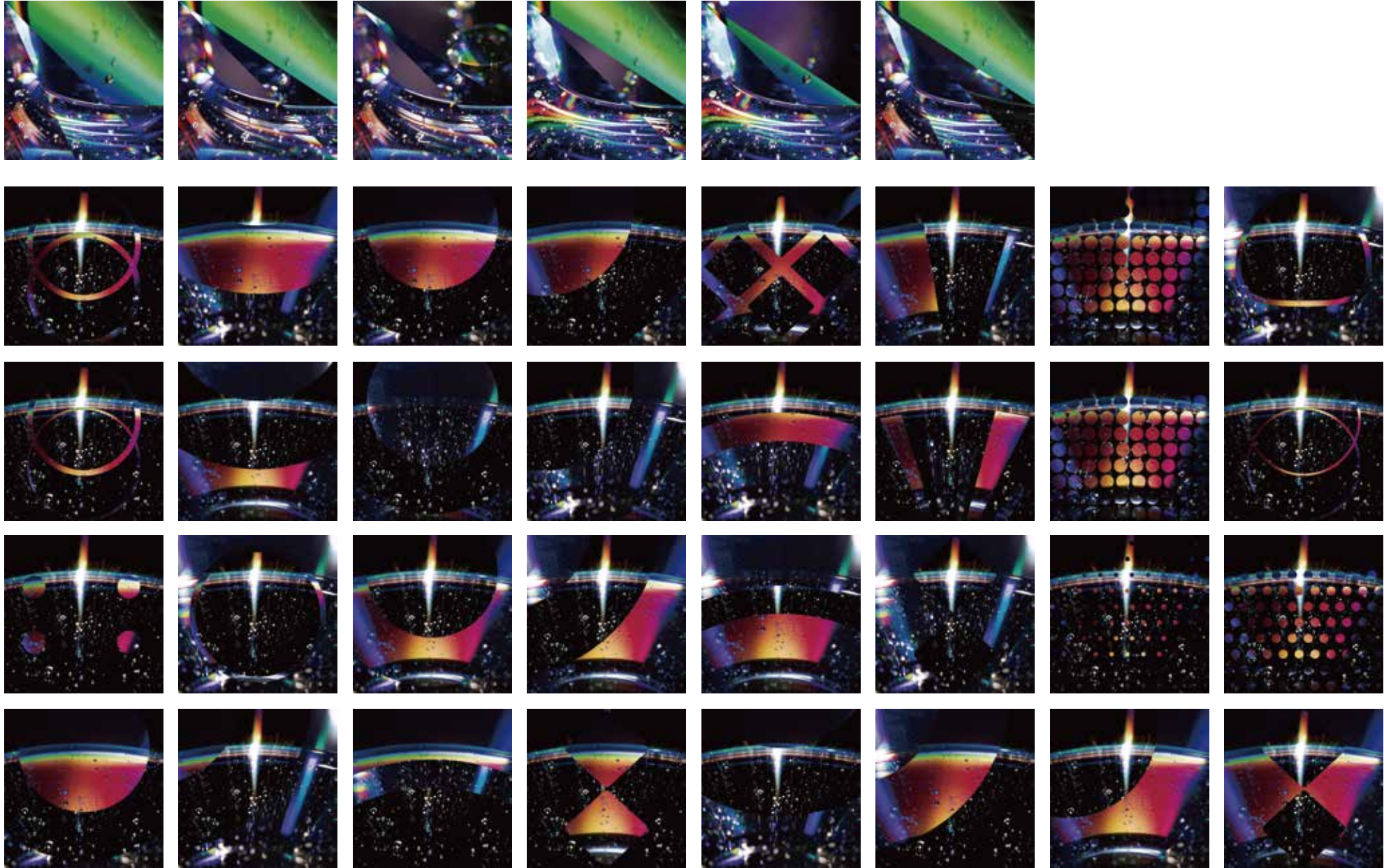
ポートレートを映した水に溶けるコピー紙を濡らして独特の質感を出した作品。













削り

背景の部分を写真紙が破れることも厭わずに削った。一度では削りきれなかったので2回に分けて行った。



1回目



2回目

塗り

画面の色彩が豊かな部分を中心にメディウムを厚く塗り込んだ。

これにより鮮やかさを損なうことなく、削りとの対比を際立たせている。しっかり乾燥したら完成。

